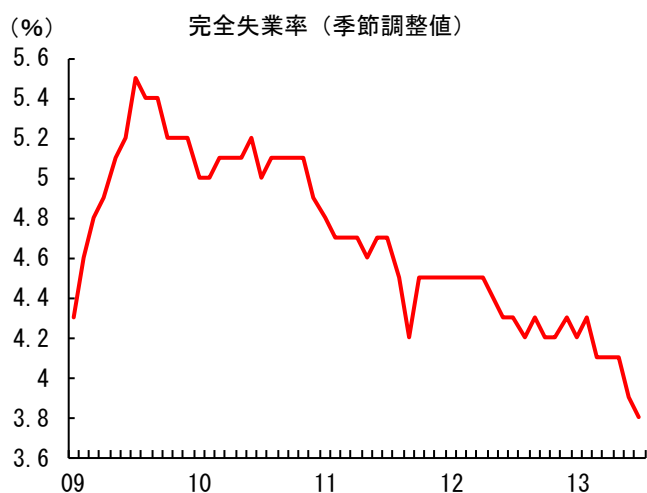


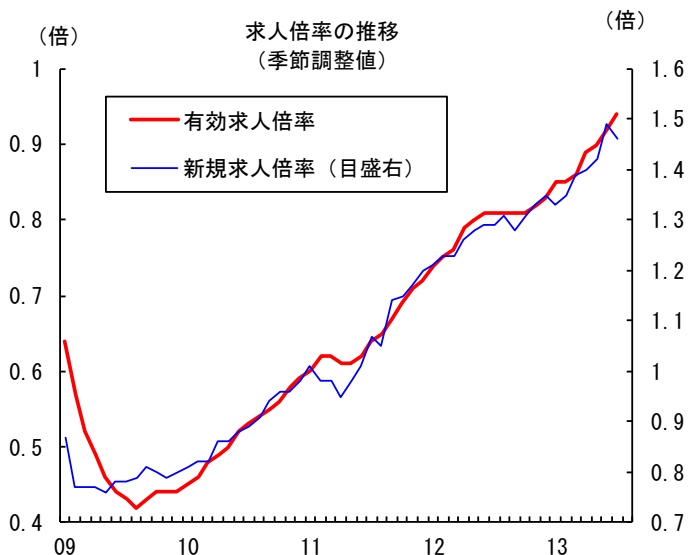
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2013年7月） 発表日：2013年8月30日（金）
～雇用環境は緩やかに改善～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○雇用環境は緩やかに改善。先行きも改善の公算大

総務省から発表された2013年7月の完全失業率は3.8%と、前月（3.9%）から0.1%ポイント改善した。2ヶ月連続の3%台であり、横ばい（3.9%）を見込んでいた市場予想以上の改善となっている。

雇用者数が季節調整済み前月差+9万人（6月：+7万人）と4ヶ月連続で増加するなど内容も良好で、雇用環境の緩やかな改善を感じさせる結果である。就業者数（季節調整値）は前月差+1万人（6月：▲1万人）と前月からほとんど変わらなかったが、前年差では+37万人と7ヶ月連続の増加である（雇用者数の前年差は+53万人、7ヶ月連続の増加）。単月の振れはあるものの、雇用者数、就業者数とも緩やかな持ち直し基調にあると判断できる。景気の遅行指標である雇用についても、景気回復が波及していることが確認できる。

産業別の就業者数（季節調整値）では、医療・福祉が前月差+11万人（6月：+21万人）と3ヶ月連続で増加したほか、製造業が同+13万人（6月：+22万人）と2ヶ月連続で比較的大きな増加となったことが目立つ。生産活動の持ち直しを受けて、製造業の雇用にも好影響が及びつつあることが示唆される。

雇用者数の先行指標である求人についても、明確な改善がみられる。厚生労働省から公表された13年7月の有効求人倍率は0.94倍と、前月から0.02ポイント改善した。5ヶ月連続の改善であり、水準も2008年5月以来の高いものとなっている。有効求人数も前月比+0.2%（6月：+1.2%）と10ヶ月連続で増加している。一方、新規求人倍率は1.46倍と前月（1.49倍）から0.03ポイントの悪化だったが、これは前月に0.07ポイントの急改善だった反動とみられ、基調は改善と見て良い。なお、新規求人数は前月比0.0%（6月：+2.2%）だった。

昨年末以降、景気が速いペースで持ち直していることが、こうした求人の増加に繋がっている。雇用の動きに先行する求人動向で改善の動きが続いていることは、今後の雇用増に向けて心強い。先行きも、景気回復の効果が波及することで、雇用者数は徐々に増加ペースを速めていくだろう。

雇用者数が緩やかに増加していることに加え、足元では賃金も下げ止まりつつあり、雇用・賃金環境は徐々に改善に向かっている。こうした所得の改善が今後の個人消費を支える材料になるとみられる。マインド改善が一服していることから、足元の個人消費は増勢が弱まっているが、先行きを悲観する必要はないだろう。